

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

個々の生徒が、本校での全ての教育活動に対し、挑戦するとともに充足感を得る教育をめざす。

1. 「思考力・判断力・表現力」を育成するための主体的・協働的な教育活動を展開する。
2. 自ら将来の夢と志を描き、教養と行動規範を身につけ、自立して社会と関わり、貢献できる生徒を育成する
3. 地域との連携を密にし、地域の将来を担う人材を育成する。

(本校は EIE ‘Evidence-informed Education’ をめざします)

## 2 中期的目標

## 1 教育力の向上

## (1) 確かな学力の育成

ア 授業充実PTを核に、本校のめざす授業像「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」を実施する。そのために昨年度から実施している反転学習など主体的、協働的な学習・指導方法を各教科で取り組む。

※A 二度目の授業アンケートにおける「興味関心が持てた」、「知識技能が身についた」の平均肯定割合を平成 27 年度末に 75%以上(H26 が 72.6%)とし、中期完成年度には 80%以上の水準を保つ。B 主体的、協働的な学習・指導方法の実践を各教科で一度は行う。

イ H26 に開始した基礎基本の力をつけるための山田BT (ベーシック・タイム 10 分間の朝学習) を継続・発展させる。

※年度末の授業アンケートで山田BTでの「知識や技能が身についた」項目の平均 3.0 をめざす。最終年度には 3.2 とする。

ウ 自主的に学習する基盤である家庭学習時間を増加させる。

※2年次の夏の学力生活実態調査において、平日ほとんど学習しない生徒の割合(H26 45%)を毎年5%ずつ削減する。

エ 選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。具体的には中期完成年度には国公立大学を10名以上、関関同立に120名以上の合格をめざす。※今後検討が予定され、3年後にはプレテストの可能性のある高等学校基礎学力テスト、大学入学希望者学力評価テスト等にも対応できるように、中期完成年度には思考力・判断力・表現力を生徒たちが身につけられるようなカリキュラム、授業法などを実施できるようにする。そのために平成 27 年度には、先進的取組を行っている学校等に教員の派遣、校内研修などを行う。

※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を年に1度以上実施する。

## (2) グローバル人材の育成

ア 語学研修を引き続き実施するとともに、昨年度姉妹校となった Bentleigh junior college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

## (3) 授業の質の向上：全体を通じ若手教員の育成を図る

ア 授業アンケート(7月・12月)の一回目を課題把握、二回目を成果検証と位置づけ、授業改善を推進する。

イ 「全員による全員の授業観察」を目標にし、パッケージ研修を継続するとともに、公開授業、授業研究を進める。また、教科枠を超えたベテランと若手のチームによる相互研鑽の方法を授業充実PTを核として研究する。

※他の教諭の授業観察を行った教諭の割合を100%。研究授業・公開授業の実施回数を年間3回以上とする。

ウ ICTを活用した授業の研究を進める。特にICTを利用しやすい環境整備に力を入れる。

## (4) 教育活動の情報発信

ア 平成 26 年度に改組、設置した総務部を中心に全校的に取り組む。

## 2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

## (1) キャリア教育を根幹に据えた学校づくり

ア 学校全体の取り組みを「キャリア教育」を中心に据えたものに変革する。

※キャリア教育の視点を軸に据えた学校全体のグランドデザインを平成 27 年度から平成 29 年度にかけ完成する。

イ 一方、卒業生の実態把握を進め、同窓会とも連携したキャリア教育を実施する。

## (2) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め他者の役に立っていると感じられ、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

ア 部活動加入率を中期目標完成年に90%とし、それを維持・継続する。(H25 87% H26 90%)

イ 学校協議会からの意見に基づき、家庭学習と部活動との両立を図る。

※学力生活実態調査における「部活動で疲れ自宅での学習に集中できない」「部活動を優先し学習時間が確保できない」とする者を中期完成年度(H29)には平成 26 年度の半数まで削減する。(H26 割合合計約 70%)

## (3) 人権尊重の教育の推進：生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

## (4) 情報リテラシーの育成：情報モラルの育成に努める。

## (5) いじめの防止：いじめ防止対策推進法の制定に伴い、学校としていじめを許さない体制をとる。

## 3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

## (1) 組織力向上：今後教育を担っていくミドルリーダーの育成を図る。

## (2) 保護者・地域との連携

ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。

イ 地域の行事へ積極的に参加する。また地域人材の活用について、地域と協議を開始する。

## 4 安全で安心な学びの場づくり

生徒支援の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した支援の充実を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(教職員)「校長は自らの教育的理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」の肯定的回答率は 93.8%であった。今年度は授業改善を柱に学校経営を行った。「指導方法の工夫改善に努めている」の肯定的回答率における対前年度比(以下、同様)は 59.3→68.8%→9.5%向上。「ICT 機器を授業に活用している」は 59.3→87.5%→28.2%の向上が認められた。</p> <p>(生徒)「他の先生が授業を見に来ることがある」60.5→84.5%→24.0%向上、「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」60.5→84.5%→24.0%向上と生徒の意見からも授業改善が図られていることが読み取れた。</p>	<p>*実施日 第一回(6/5) 第二回(11/19) 第三回(1/28)</p> <p>*委員構成(敬称略)</p> <p>関屋俊彦(会長、大学教授)、笠井一司(地元中学校長)、大中 勇(地元小学校長)、栗原喜幸(地元公民館館長)、瀬川 昇(P T A会長)、西川滋夫(同窓会副会長)</p> <p>第1回(6/5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学を実施。生徒が落ち着いており、日頃の地道な指導に対して高い評価を得た。</li> <li>・授業改善について、教員がお互いに授業を見学し合うのは非常によいことだという意見をいただいた。さらに授業改善に取り組んで欲しいという要望が出された。</li> </ul> <p>第2回(11/19)</p>

## 府立山田高等学校

(保護者)「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」62.8→77.6%へ14.8%向上、「山田高校の授業に満足している」68.6→76.8%へ8.2%向上、「部活動は活発である」73.5→96.2%へ22.7%向上、「山田高校に入学させてよかった」74.0→93.2%へ19.2%の向上が認められた。

これらのことから保護者が本校のめざす方向を理解し、それに納得していただいていることが読み取れる。今後、更に授業改善に取り組み、学力向上・人間性の育成、そして何よりも生徒・保護者が希望する進路の実現を図る。

・小学生対象の科学実験講座や中学生対象の楽しいスポーツ芸術講座の実施、生徒による地域清掃、吹奏楽部・ダンス部等による地域のいろんな行事への参加など、地域から愛され信頼される学校づくりに頑張っていると高い評価を得た。

・授業見学をして、今以上に毎日校内美化に取り組んで欲しい。自分たちが生きる環境を自分たちで作っていくということを教育して欲しいという要望が出された。

第3回(1/28)

・今年度の授業改善を礎に更に授業力の向上に取り組んで欲しいという要望が出された。

・小・中学校との交流、地域連携を更に発展させて欲しいという要望が出された。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育力の向上	(1) 確かな学力の育成	<p>ア・授業充実PTを核に、「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」を行う。そのためにも主体的・協働的学習指導方法を各教科で一度は行う。</p> <p>イ・H26に開始した山田BT（10分間の朝学習）を継続・発展させる。生徒に実施の意義を伝えるとともに、H26の英語(単語・リスニング)だけでなく、漢字等の他教科の取り組みも行う。</p> <p>ウ・自主的学習の基盤である家庭学習時間を増加させる。</p> <p>エ・選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。</p>	<p>アA・年度末授業アンケートにおける「興味関心」「知識技能」の平均肯定割合75%以上(H26年度72.6%)</p> <p>B・主体的、協働的学習・指導方法の実施 各教科年一度以上</p> <p>イ・年度末授業アンケートでの「知識・技能」の評価平均3.0(H26年度2.5)</p> <p>ウ・夏の学力生活実態調査においての「平日ほとんど学習しない」生徒の割合40%以下(H25年度50%、H26年度45%)</p> <p>エA・授業充実PTを中心に他校の先進事例の見学に赴き、事例研究を複数回実施する。</p> <p>B・今年度国公立大学・難関私学の合格者100人以上</p>	<p>アA・授業アンケートにおける「興味関心」の平均肯定割合は76.1%。「知識技能」は78.9%であった。目標値の75%を超えることができた。(昨年度72.6%) (◎)</p> <p>B・アクティブ・ラーニング等の主体的・協働的な学習方法による授業を国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、家庭科で実践できた。(○)</p> <p>イ・山田BTは、週5日のうち英語を3日、国語を2日実施することができた。この取組みにより、授業アンケートでの「知識・技能」の評価平均は3.06と目標値(3.0)を上回った(昨年度2.5)。 (◎)</p> <p>ウ・学力生活実態調査における「平日ほとんど学習しない」生徒の割合は、1・2年で53.2%(目標値40%、昨年度45%)であった。なお、3年生は実施せず。(△)</p> <p>・今後、授業での取組み及び山田BT等により「平日ほとんど学習しない」生徒の割合が40%以下となるよう努力する。</p> <p>エA・他校の先進事例の見学は、個別に実施。事例研究を2回行った。(○)</p> <p>B・今年度はセンター入試を197人(昨年度162人)受験した。合格者は、国公立大11人(昨年度7人)、難関私学(関関同立)127人(昨年度107人)となり、難関大学合格者は目標100人を大幅に上回った(◎)。</p>
	(2) 授業の質の向上	<p>ア・「全員による全員の授業観察」を引き続き目標にする。また、研究授業、公開授業を積極的に実施する。</p> <p>イ・ICTを活用した授業の実践を行う。</p>	<p>ア・他の教諭の授業観察を行った教諭の割合100%とする(H26 93%)。研究授業・公開授業を年に3回以上実施する。</p> <p>イ・ICTを利用した公開授業を年1回以上行う。</p>	<p>ア・「全員による全員の授業観察」をスローガンに、他の教諭の授業観察を行った教諭の割合は96.7%(目標値100%、昨年度93%)であった。研究授業は全14回(初任者研究授業9回、フォローアップ研究授業2回、パッケージ研修の研究授業2回、指導教諭研究授業1回)その他公開授業等について情報提供し、授業観察により授業改善に取り組んだ。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の結果から検証すると、(生徒)「他の先生が授業を見に来ることがある」の肯定的回答率における対前年度比(以下、同様)は60.5→84.5%→24.0%向上、(保護者)「山田高校の授業に満足している」68.6→76.8%→8.2%向上、(教員)「指導方法の工夫改善に努めている」59.3→68.8%→9.5%向上。これらの結果から授業改善が図られたことが読み取れる。</p> <p>イ・ICTを活用した授業研究を国語、社会、数学、理科、英語、保健体育で実施できた。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の結果から検証すると、(教員)「ICT機器を授業に活用している」59.3→87.5%→28.2%向上、(生徒)「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」60.5→84.5%→24.0%向上と生徒の意見からも授業改善が図られていることが読み取れる。</p>
	(3) 教育活動の情報発信	<p>ア・新規改組した総務部を中心に全校的に取り組む。</p>	<p>ア・学校説明会を年間20回以上実施する。</p>	<p>ア・学校説明会(府立高校合同説明会、本校説明会、塾説明会、中学校説明会等)を全28回実施した。(○)</p>

## 府立山田高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 豊かでたくましい人間性のほぐし</p>	<p>(1) キャリア教育を根幹に据える取り組み</p> <p>(2) 部活動や特別活動を通じてのたくましい人間性を育てる</p> <p>(3) 人権尊重の教育の推進</p>	<p>ア・同窓会と協力し、卒業生のキャリア実態を把握する。またそれを活用し、在校生が社会を生きるうえで必要な力を身につけるキャリア教育に生かす。</p> <p>ア・部活動への積極的な参加を促す。</p> <p>イ・特別活動などについての連携大学（関西学院大学）との研究を継続し、校内での報告会を行う。</p> <p>ウ・生徒会の、部活動に関する規約などを徹底し、また家庭学習と部活動の両立をはかる。それにより、主体的に自己の人生を引き受けていく力を育成する契機とする。</p> <p>エ・遅刻指導を徹底する。</p> <p>ア・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。</p>	<p>ア・同窓会 30 周年を機に卒業生のキャリア実態を把握する。同窓生によるキャリア教育の機会を年 1 回以上持つ。</p> <p>ア・部加入率 90%を維持。</p> <p>イ・研究成果の公表、途中経過の報告会を年度内に各 1 度以上行う。</p> <p>ウ・学力生活実態調査における、部活動が学習に悪影響を与えているとするものの割合 (H26 70%)を、前年比—10%とする。</p> <p>エ・平成 26 年度比—10%を達成する。</p> <p>ア・人権研修会(生徒参加型)を年 1 度以上実施する。</p>	<p>ア・同窓会と連携し、1/13 の LHR で 2 年生全員に対して、卒業生 (25 期生、森氏、現大学 4 回生) に世界一周の体験談を話してもらった。さらに、2/3 に 2 年生全員に対して、卒業生 (3 期生、同窓会会長 石井氏) によるキャリア教育講演会を実施する。(◎)</p> <p>ア・新入生歓迎会でのクラブ紹介、仮入部期間の設定等により、部活動への積極的な参加を促した結果、入部率 89.6%となった。目標の 90%を維持・継続することができた。(○)</p> <p>イ・関西学院大学との研究継続を行っている。報告会もデータがまとまり次第行う予定である。(○)</p> <p>ウ・学力生活実態調査における「部活動が学習に悪影響を与えている」とするものの割合は 1・2 年で 69.4%(目標値 60%、昨年度 70%)であった。なお、3 年生は実施せず。(△)</p> <p>・今後、部顧問、学年団、行事担当が連携し、学習と部活動の両立を図ることができるように努力する。</p> <p>エ・遅刻指導は、1 年間・全学年を通して、前年度と比べ 2097 回 (29 クラス) が 2262 回 (30 クラス) になった。一人あたりの遅刻数でいうと 1.81 回から 1.89 回となり、対前年比 4%増という結果である (目標値、対前年度比 10%減)。(△)</p> <p>・今後、遅刻指導の方法を改善する。放課後に生徒を呼び出し担任、生指担当からの指導のみならず、保護者等を巻き込んだ指導を検討する。</p> <p>ア・人権学習を 1 年 11/25、2 年 11/18 に実施することができた。内容は「互いの心と身体を尊重しよう」(デートDVについて)と題して、吹田市男女共同参画センターの職員からの講義。3 年は就職差別、違反質問等に加えて、12 月にも「ブラックバイトについて」学習した。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の結果からも(生徒)「人権について学ぶ機会がある」の対前年度比 56.6→71.8%へ 15.2%向上。(保護者)「子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」は 56.6→86.3%へ 29.7%向上と人権教育の活性化が図られていることが読み取れる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 保護者・地域との連携</p>	<p>ア・高い評価を得ている小学生対象科学入門講座、中学生対象「楽しいスポーツ芸術講座」を維持発展させる。</p> <p>イ・地域との連携を深める。</p>	<p>ア・小学生講座 40 名以上、中学生講座 300 名以上の参加をめざす。</p> <p>イ・地域協議会等へ 10 回以上参加する。</p>	<p>ア・地域の小学生対象の科学入門講座に 27 名が参加した (目標値 40 名以上)。また、10・11 月に中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高カップ (サッカー、バスケットボール、ソフトボール等) に 170 名が参加した (目標値 300 名以上)。(△)</p> <p>・今回、市の大会と重なったために参加者が少なかった。次年度は事前の調査を行い実施する。</p> <p>イ・校長、教頭、PTA が山田東中学校区・地域教育協議会等へ 12 回参加した。地域のフェスティバル (10/24) に吹奏楽部、ダンス部、おにぎり販売として PTA が参画した。また、地域の文化祭に美術部、書道部が出展し、地域との連携を深めることができた。(◎)</p>